



最期まで自分らしく生きるために ～私の医療に対する希望～



一宮市立市民病院では、市民の皆さんが自分や大切な人の「もしもの時」について考え、日頃から話し合うことで、今をより大切に、自分らしく最期まで生きることができるのではないかと考えています。

今回は、ご自身の「もしもの時」を想定した今の考えをお聞きしたいと考え、このアンケートを作成しました。

<人生の最終段階になったときの希望 について>

①点滴による水分の補給とは

▽腕や足の静脈から、点滴による水分補給を行うことです。脱水は防げますが、低栄養が進行します。重症な病態あるいは長期間となると、継続が厳しくなる場合があります。

※病状次第ですが、数日から数週くらいの延命になります。



②鼻チューブによる栄養補給とは



▽チューブを鼻から胃まで入れ、流動食を流し込んで栄養補給を行うことです。流動食の味は分かりません。また、鼻やのどに違和感があり、無意識に抜いてしまうことがあります。長期の使用は鼻の炎症を引き起こしてしまうため、適していません。

※病状次第ですが、数週から数か月くらいの延命になります。

③胃ろうによる栄養補給とは

▽内視鏡を用いた小手術によって、お腹の外側から直接胃に穴を開けてチューブを通し、体の外から栄養剤を入れることです。胃に穴を開けるため、腹膜炎などの重度な合併症を来す場合があります。

※病状次第ですが、数週から数か月くらいの延命になります。



④人工呼吸器の使用とは



▽自力で呼吸ができないときに、管を口などから気管に挿入し、機械で呼吸を補助することです。この状態が1, 2週間程度続いた場合、のど仏の下の皮膚を切開して気管に穴を開けること（気管切開）が必要になります。

※一度装着すると、症状次第ですが数時間から数日くらいの延命となります。意識が戻らないまま、数週から数か月くらいの延命となることもあります。

⑤心臓マッサージなどの心肺蘇生とは

▽様々な原因により心臓や呼吸が止まったり、止まりかけたりしたときに実施する緊急処置のことです。蘇生術が必要となる状況では、数分の寿命を考えなければなりません。

- 心臓マッサージ

胸の上から心臓付近の圧迫を繰り返す方法です。

- 気管内挿管

呼吸停止時や十分な呼吸ができていない時に、口や鼻からのどに管を入れて呼吸をサポートする手段です。

- マスク換気

鼻と口をおおう専用のマスクを用いて、手動で呼吸をサポートする方法です。



⑥抗生物質の積極的な使用とは



▽体の衰弱によってリスクが増大する感染症に対し、積極的に抗生物質を使用することで症状の改善を試みることです。この改善は一時的なものにとどまる可能性もあります。また、抗生物質の使用により下痢などの症状が出る可能性がある他、薬剤耐性菌の出現を助長することで治りにくくなってしまいう可能性があります。

⑦人工透析の実施とは

▽特殊な装置を用いて血液の老廃物などを取り除き、再び体内にもどす治療のことです。人工透析により腎臓の働きは維持されますが、他の臓器の機能の悪化を改善することはできません。また、人工透析により血圧低下や感染など生命を著しく脅かす危険性があります。

※介護施設での実施は困難な場合があります。

